

教会創立100周年
週 報
2022年11月27日 5213週

【今年度のテーマ・聖句】

「感謝と前進

—キリストの香りを携えて—

あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。

(コリントの信徒への手紙一 6章 20節)

巻 頭 言

田中由紀子執事

「重荷と喜び」

もうかれこれ二十年前のことだろうか。まだ私が西南女学院のスタッフとして勤務していた頃、上司であった片山寛先生からこんな言葉をかけて頂いた。「クリスマスが近づくと、学校の仕事も、教会の仕事も、ご家庭も大変でしょう？ だけど、私たちクリスチャンにはこの「三つ」のバランスがいんですよ。何よりいいのは私たちには重荷を下ろす場所があるということです。」先生はそうおっしゃった。三つの内の何れかで抱えきれないほどの重荷を持っていたとしても、丁度、三本足のテーブルのように何とかバランスを保ちながら持ちこたえることが出来るという、そういう理屈である。とはいえ中々理屈通りにはいかないなあと思いつつ、毎年クリスマスが近づくと、ふと思いつきしていた言葉である。

さて、クリスマスまであと一週間となった先週の日曜日、クリスマス実行委員会の呼びかけによって教会の飾りつけが行なわれた。ツリーは幼い子供たちの賑やかな声と共に飾り、ポスターは毎年クリスマス作品として奉げて下さっていた姉妹のポスターを飾った。そしてクリスマスリース！ これも前年までは一人の姉妹が手掛けて下さっていたが、今年は数名の有志の方々によって手作りされた。何れも見事な逸品で、リースを囲む皆が笑顔になった。クリスマスを憶えて行つたこの働きは、病床にいらつしやる姉妹たちへの祈りもこめられていると感じた時、何故か私の「重荷」までがスッと軽くなるのを感じたのである。

仕事、健康、家族、人間関係等々、私たちはありとあらゆる重荷の中に生かされている。確かに教会は重荷を下ろすことのできる場所である。が、しかしイエス様は更に『互いに重荷を担いなさい』と言われる。自らの重荷を抱えつつ、互いに友の重荷を担い合う。その時に重荷は軽くされる。これが御言葉の指し示す意味ではなかるうか。「教会創立百年のクリスマス」、愛する方々と共にその恵みと喜びを分かち合いたいと願っている。

日本バプテスト シオン山教会

牧師：伊藤光雄

〒803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

TEL:093-561-0772 Fax: 093-561-0760

E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

HP-address: <https://bapzion.com>



◆ 主日礼拝

午前 10 時 30 分

司会 庄司まり子執事
奏楽 田中秀一兄

前 奏

招 詞 イザヤ 12 : 5

頌 栄 670 (主のみ名をほめまつれ)

主の祈り (新生讃美歌の扉を参照)

讃 美 14-1, 2 節
(心込めて主をたたえよ)

世界バプテスト祈禱週間を憶えて

アピール 千葉敦子姉

聖 書 マルコ 16 : 1 ~ 8
(新共同訳 97p 口語訳 81p)

祈 禱 167 (天にはさかえ) 聖歌隊

宣 教 「見えなくされたクリスマス」
伊藤光雄牧師

祈 禱 385 - 1, 2 節
讃 美 (すべての人に宣べ伝えよ)

献 金 祈り：稲生彩子姉
(女性会 B 班)

報 告 673 (救い主 み子と)
頌 栄 伊藤光雄牧師
祝 禱
後 奏

◎今月の聖句

「わたしは、強く雄々しくあれと命じたではないか。うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。」

(ヨシュア記 1 章 9 節)

今月の当番役員

島田利一 酒井光子

本日の集会

教会学校

幼稚科・小学科・中高科・
青年科・成人科
9 : 30 ~ 10 : 15

主日礼拝の当番

受付：船津丸泰 田中登美子
島田利一(当番役員)

お花：二木榮子

聖歌隊練習 11 : 45 ~ 12 : 00
定例役員会 12 : 00 ~ 13 : 00

◎今週の集会(11月27日~12月3日)

30日(水) 19時30分

祈りを合わせましょう

<聖書> ルカ 1 : 5 ~ 25

30日(水) 祈禱会 I 19 : 00

(奨励：伊藤光雄牧師)

1日(木) 祈禱会 II 10 : 30

(奨励：伊藤光雄牧師)

今週の聖書日課と祈り

27日(日) サムエル記下 14章 満嶋 明

28日(月) サムエル記下 15章 満嶋 稔

29日(火) サムエル記下 16章 三股ツ康恵

30日(水) サムエル記下 17章 持田文重

1日(木) サムエル記下 18章 持田喜明

2日(金) サムエル記下 19章 守田牧子

3日(土) サムエル記下 20章 安河内眞智子